

柔道しずおか

平成24年3月 静岡県柔道協会発行

事務局 〒420-0911 静岡市葵区瀬名7-2-38 佐々木秀男
TEL 054-265-5272 FAX 054-265-5274

【巻頭言】

柔道の安全指導について

静岡県柔道協会 会長 八段 安齊悦雄



平素より、当協会の運営につきま

しては、多大なるご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

ご承知のとおり、当協会は、正しい柔道の普及発展と競技力の向上そして、柔道を通じた青少年の健全育成を大きな柱として推進しているところであります。

その根幹を成す柔道人口の確保、これがなければ、普及どころか競技力向上もありません。

少子化が加速する中、いかに減少を食い止め、あるいは少しでも増加させていくには、どうしていけばよいのか、何が必要なのかを考え、先ずは、柔道人口の減少対策に取り組んでいかなければなりません。

柔道を普及させる上で、柔道は、楽しいもの、魅力あるもの、そして、何よりも安全であるというイメージが重要であり、柔道の持つ特性や素晴らしさを発信していかなければ

ならないと思うわけであり

ます。

そうした中、本県で平成22年7月に発生した部活中における中学生死亡事故に伴い、本年の1月に柔道部の顧問が書類送検されたという報道が

されました。

このことは、我々柔道関係者にとつて、大変衝撃的なことであり、深刻な問題として重く受け止めなければなりません。

申すまでもなく、重大事故は、絶対にあつてはならない、起こしてはならないことであり

ます。当協会としても、例年安全講習会や指導者講習会等

を開催するなど、積極的に対応してきたところでありますが、誠に残念でなりません。

さて、いよいよ本年度から文科省令により、中学校の武道（柔道、剣道、相撲から選択）必修化が始まります。

統計によりますと、全国の中学校の70%強が柔道を選択されることとあります。

ところが、ここへきて、柔

道による重大事故の多発や現場での専門指導者の不足が指摘され、安全性を懸念するような報道がされるようになり、保護者の間からも必修化中止や授業拒否を求める声が出てきていると聞いております。

これでは、柔道人口の増加どころか、ますます減少傾向に歯止めが掛からないのではと危惧しております。

必修化導入につきましては、従前より県教育委員会に対し、指導者育成事業、指導手引きの作成あるいは指導者派遣事業等々、全面協力をしているところであります。

全柔連でも現状を踏まえ、平成22年新たに「安全指導プロジェクト特別委員会」を設立させ、医科学委員会とともに、更なる安全普及のための「新・安全指導マニュアル」を作成しました。

昨年、全柔連主催の安全指導講習会が開催され、本県からは、中体連、高体連それぞれの代表者を派遣したところです。そこで、平成24年度からの全柔連指導者登録には、この安全講習会修了（各県の伝達講習を含む）が義務付けられました。

本県では、その伝達講習会を、指導者全員が受講できるように、昨年12月の東部地区を

皮切りに開催し、2月に西部、4月に中部、そして6月には、未受講者を含めた県全体の中

央講習会と順次、開催を予定して

しておりますので、積極的な受講をお願いする次第です。

柔道普及の大きな危機とも言える、こうした情勢を真摯に受け止めるとともに、指導者ひとり一人が事故は絶対起こさせないといった強い信念を持ち、決してネガティブにならず、これまで培われた技量、体験を存分に発揮され、自信を持って指導に当たって

いただきます。そして、万が一、事故が発生した場合においても、適切な判断と重大事故に発展させないための応急措置等々、迅速な対応ができるよう、医学的な見知を含めた更なる研鑽が不可欠であり、それが柔道に携わる者の責務であると考えて

しております。この他にも当協会の抱える課題は山積しておりますが、それらを会員全体の共通した問題として正面から対応し、柔道の発展はもとより、先達が築いてきた伝統ある静岡県柔道協会を正しく継承・発展させていくため、一層のご協力をお願い申し上げます。

国報 国民体育大会柔道競技報告



静岡県チーム

第六十六回国民体育大会柔道競技は、平成二十三年十月二日から四日の間、山口県萩市の萩市民体育館において開催されました。

総監督	野田昭一	静岡県柔道協会理事長
総務	勝呂良三	富士市立高校教諭
トレーナー	赤池理	アカイケ鍼灸接骨院
監督	渡辺達也	静岡県警察
コーチ	大村恭一	静岡県警察
先鋒	鈴木壯太	筑波大学3年
次鋒	鈴木隼	拓殖大学3年
中堅	渡邊勝充	帝京大学3年
副将	坪山勇太	静岡県警察
大将	鈴木慎一	静岡県警察

八月に開催された東海ブロック予選では、成年女子及び少年男女がそれぞれ健闘しましたが惜しくも一県の出場枠を獲得することができず、成年男子のみ出場となりました。

今回の国体は、本県出場選手五人が全員初出場というフレッシュなチーム構成となりましたが経験不足をチームの団結力と若さでカバーし、五位以上の入賞を目標に掲げ、大会に臨みました。

【成年男子二回戦】

静岡県は二回戦からの出場で、福井県に代表戦の末勝ち上がった福島県との対戦となる。

	静岡県	3	対	0	福島県
先鋒	鈴木壯	×	引き分け	×	村上
次鋒	鈴木隼	○	裏投		古谷
中堅	渡邊	○	指導2		野島
副将	坪山	×	引き分け	×	佐藤
大将	鈴木慎	○	内股		添田

○先鋒(60kg以下)

鈴木壯太(筑波大学) 背負投、袖釣込腰で積極的に攻めるも決め手なく引き分け。

○次鋒(73kg以下)

鈴木隼(拓殖大学) 体落で有効を奪われたが、後半相手が内股を仕掛けてきたところを裏投で応じ、逆転の一本勝ち。

○中堅(90kg以下)

渡邊勝充(帝京大学) 開始早々の左内股に相手が宙に浮くもポイントとならず、更に内股・小外刈で積極手に攻め指導二を奪い優勢勝ち。

○副将(90kg超)

坪山勇太(静岡県警察) 左内股・大外刈で積極的に攻めるも決めてなく引き分け。

○大将(無差別)

鈴木慎一(静岡県警察) 序盤から動き良く、開始一分半に相手の頭を下げさせた状態



会長より激励される選手団

からケンケン内股で豪快に一本を奪う。

	佐賀県	3	対	0	静岡県
先鋒	片渕	×	引き分け	×	鈴木壯
次鋒	坂本	○	指導2		鈴木隼
中堅	田中	○	崩裂袷固		渡邊
副将	檜崎	○	縦四方固		坪山
大将	陣内	×	引き分け	×	鈴木慎

【成年男子三回戦】

北海道・群馬県に勝ち、波に乗っている佐賀県との対戦となる。

○先鋒 鈴木壯太(筑波大学)

巴投から寝技に持ち込むが相手も上手かわす。奥襟を掴むスタイルで積極的に技を仕掛けるが決め手なく引き分け。

○次鋒 鈴木隼(拓殖大学)

背部を掴む得意の組み手となるが相手の技の仕掛けが早く消極的となったところを指導二受け、後半攻めに転じたがそのまま時間切れとなる。

○中堅 渡邊勝充(帝京大学)

得意の内股がかわされ、逆に相手の得意の寝技で攻められ、四つん這いになったところを横

に返され崩裂袷固で抑えられ一本負け。

○副将 坪山勇太(静岡県警察) 一分半に寝技の攻防で右肩を負傷するがそのまま縦四方固で抑えられ一本負け。

○大将 鈴木慎一(静岡県警察) 既にチームの敗退は決まっていたが積極的に技を仕掛け、指導の反則を奪うがその後攻めきれず引き分けとなる。

佐賀県とは、ほぼ互角の実力であっただけに、勝負へのこだわりというか、チームに勝ちの流れをもつてくるのができずに敗退してしまったというのが実感です。この三回戦で勝てば五位入賞だっただけに残念な試合結果でした。

今後の課題としては、勝利する際には、試合時間の最初から最後まで技を掛け続けるスタミナを養い、正しい組み手からの攻撃柔道に徹することが必要かと思われます。

更に精進を重ね最強・最高のチーム作りに励みたいと存じます。関係各位に感謝を申し上げますと共に平成二十四年岐阜県国体での活躍を誓い、大会結果の報告をさせていただきます。ありがとうございました。

(文責 渡辺達也)

第32回国体東海ブロック大会

平成23年8月21日 名張市武道交流館

静岡県選手団

団長 野田昭一

(静岡県柔道協会強化委員長)

総務 勝呂良三(富士市立高校教諭)

少年男子

監督 小柳津敬博(東海大翔洋高校教諭)

コーチ 宮本昌人(常葉高校教諭)

選手 福本真佐也(静岡学園高校)

伊奈慶貴(日本大学二高高校)

浅賀慎太郎(静岡学園高校)

藤本貴大(浜松商業高校)

徳丸佑真(加藤学園高校)

少年女子

監督 西川勝啓(裾野高校教諭)

コーチ 磯部拡美(庵原高校教諭)

選手 神山悠香(加藤学園高校)

村山のどか(沼津市立沼津高校)

滝川真央(富士市立高校)

成年女子

監督 間宮幸男(浜松学院教諭)

コーチ 磯部拡美(少年成年兼任)

選手 鈴木りほ(東海大学)

岩澤胡桃(愛知産業大学)

土屋文香(東海大学)

少年男女・成年女子ともに本選出場は、東海ブロックより1

チームで、毎年厳しい戦いを強いられる。

少年男子は、大成高校を中心とする愛知によく善戦し、2位となり、来年に弾みをつけた。

少年女子は、全国の中でも、レベルが高く、岐阜・愛知・静岡の三つ巴の戦いとなり、代表となつた愛知には、1対1の内容負けで、惜しくも本選出場を逃した。愛知が本国体を優勝しているだけに、残念な敗戦であった。

成年女子は来年度に国体開催を控えている岐阜が、全日本強化選手3名を揃え、圧勝した。来年は、全種別出場を目指して、頑張りたい。

第53回 静岡県柔道祭開催

平成23年5月8日午前9時30分

静岡県武道館

恒例の柔道祭が今年度も県武道館で開催された。安齊会長の挨拶に続き、静岡学園高校の佐藤和哉君により選手宣誓が行われた。佐藤君は全日本カデ柔道体重別選手権大会でも選手宣誓をしており、今回もすばらしい宣誓をしてくれた。選手宣誓に

続き、恒例の柔道協会表彰が行われた。表彰された方々は次の通り。

平成23年度静岡県柔道協会表彰

《永年功労賞》

- 六段 稲木寛男
- 六段 宮本達夫
- 六段 石田泰嗣
- 四段 佐々木清作

《功労賞》

- 七段 磯部正博
- 六段 横山尚博
- 五段 松沢正信
- 五段 清 恵二
- 五段 渡辺明彦
- 五段 渡邊武彦
- 五段 才茂一幸
- 五段 高山知久
- 四段 伊藤道明
- 四段 加藤浩之
- 四段 川口善弘

《優秀指導者賞》

- 五段 鈴木克美

(東海大学付属翔洋高校中等部 柔道部顧問)

平成23年度全日本カデ柔道体重別選手権大会女子70kg級優勝 遠田真子選手を育成

《優秀選手賞》

- 初段 遠田真子
- (東海大学付属翔洋高校中等部 3年)

平成23年度全日本カデ柔道体重別選手権大会女子70kg級優勝、世界カデ柔道体重別選手権大会に日本代表として出場

表彰に続き試合が開始された。

小学生から一般まで県内の柔道選手が一同に集まる唯一の大会で、会場は大いに盛り上がりを見せていた。

第53回静岡県柔道祭成績

団体成績

小学校の部

- 1位 静岡錬心館
- 2位 神士館
- 3位 富士市柔道会
- 3位 育誠館

中学校の部 (男子)

- 1位 静岡学園中学
- 2位 東海大翔洋中学
- 3位 笠井中学
- 3位 常葉学園橘中学

中学校の部 (女子)

- 1位 藤枝順心中学
- 2位 東海大翔洋中学
- 3位 大仁柔道会
- 3位 大仁中学

高校の部 (男子)

- 1位 静岡学園高校
- 2位 浜松商業高校
- 3位 飛龍高校
- 3位 市立沼津高校

高校の部 (女子)

- 1位 東海大翔洋高校
- 2位 藤枝順心高校
- 3位 加藤学園高校
- 3位 静岡学園高校

一般の部

- 1位 S S U柔道クラブ
- 2位 東海翔柔クラブ
- 3位 葦山
- 3位 富士市柔道会

優秀選手

小学校の部

- 黒柳篤季(錬心館)
- 大橋海斗(神士館)

中学校の部 (男子)

- 佐野安大(静岡学園中学)
- 岡村康平(東海大翔洋中学)

中学校の部 (女子)

- 渡辺香奈(藤枝順心中学)
- 山本ひな(東海大翔洋中学)

高校の部 (男子)

- 小澤秀彰(静岡学園高校)
- 下田一輝(浜松商業高校)

高校の部 (女子)

- 堀川都美(東海大翔洋高校)
- 小川莉歩(藤枝順心高校)

一般の部

- 内田武三士(S S U柔道クラブ)
- 古賀 航(東海翔柔クラブ)

飯田稔元静岡県柔道協会副会長 (元西部地区幹事長) 県知事表彰を受ける



飯田稔先生が長年「教育学術文化スポーツ」の分野で貢献したとして、静岡県知事表彰を受けられた。表彰式が文化の日県庁別館二十一階の展望ロビーで行われた。柔道協会としては十一月二十六日理事会の後、先生の受賞をお祝いする会を開催した。

柔道協会 優秀選手表彰

恒例の静岡県柔道協会優秀選手表彰が11月26日ホテルシテイオ静岡で行われた。対象者は新人選手紹介コーナーで紹介する以下の選手たちである。特に佐藤君は2年連続での表彰となった。表彰された選手は、第31回全国少年柔道大会個人戦6年の部で3位に入賞した渡辺将一君(静岡錬心館道場)、平成23年度全日本カデ柔道体重別選手権大会女子70kg級優勝・2011年度カデ体重別選手権大会女子70kg級準優勝の遠田真子さん(東海大翔洋高等学校中等部)、平成23年度全日本カデ柔道体重別選手権大会男子50kg級3位入賞の杉山慎吾君(常葉学園橘高等学校)



お礼の言葉を述べる遠田選手



優秀選手を囲んで

学校)、平成23年度全日本カデ柔道体重別選手権大会男子90kg級3位入賞の佐藤和哉君(静岡学園高等学校)、平成23年度全日本ジュニア柔道体重別選手権大会男子55kg級3位の鈴木優希君(常葉学園橘高等学校)、平成23年度全日本ジュニア柔道体重別選手権大会女子48kg級3位・平成23年度講道館杯全日本柔道体重別選手権大会女子48kg級3位の岡本理帆さん(藤枝順心高等学校)の6人である。安齊会長から挨拶が行われた後、賞状と記念品が参加者に授与された。選手を代表して遠田真子選手がお礼の言葉を述べ閉会した。

各種大会の報告

第28回 春季静岡県立大学高専柔道大会

5月3日(火・祝)
静岡市北部体育館

団体の部

優勝 静岡産業大学A

個人の部

女子無差別級

優勝 澤口桃子(静岡産業大学)

男子66kg級

優勝 岩本洋範(東海大学)

男子81kg級

優勝 大木 翔(静岡産業大学)

男子81kg超級

優勝 伊藤陽介(静岡産業大学)

第31回全国少年柔道大会

5月5日(木・祝)
講道館

団体戦

静岡錬心館 2回戦進出

個人戦

5年生

村松孝紀

6年生

渡辺将一

初戦敗退

3位入賞

平成23年度東海地区形競技大会

7月3日(日)
名張市武道交流館

投の形

取四段 齋藤修司

受四段 尾藤設則

固の形

取四段 川島伸夫

受四段 伊藤厚志

極の形

取五段 森下良男

受五段 高林祐介

柔の形

取七段 白井康二

受女子五段 白井恵子

講道館護身術

取六段 一瀬 誠

受六段 竹内紀久夫

五の形

取七段 磯部正博

受七段 中村寿一

古式の形

取七段 渡辺達也

受七段 小野瀬康行

1位全国大会出場



平成23年度静岡県成年柔道
体重別選手権大会兼国民体育
大会柔道競技候補選手選考会

7月9日(土)
静岡県武道館

成年男子	60kg級	鈴木壮太(筑波大学)	1位
	73kg級	鈴木隼(拓殖大学)	1位
	90kg級	渡邊勝充(帝京大学)	1位
無差別		鈴木慎一(静岡県警察)	1位
成年女子	52kg級	鈴木理穂(東海大学)	1位
	70kg級	岩澤胡桃(愛知産業大学)	1位
無差別		土屋文香(東海大学)	1位

平成23年度全日本ジュニア柔道
体重別選手権大会東海地区予選会

7月10日(日)
三重県名張武道館

男子	55kg級	鈴木優希(常葉橋高校)	1位
----	-------	-------------	----

60kg級	福本真佐也(静岡学園高校)	2位	
66kg級	石田 亘(浜松商業高校)	4位	
73kg級	伊奈慶貴(日大三島高校)	1位	
81kg級	浅賀慎太郎(静岡学園高校)	3位	
90kg級	山本雄也(浜松商業高校)	3位	
100kg級	佐藤和哉(静岡学園高校)	2位	
100kg超級	小澤秀彰(静岡学園高校)	4位	
女子	44kg級	井口可菜美(浜松商業高校)	2位
	48kg級	岡本理帆(藤枝順心高校)	1位
	52kg級	神山悠香(加藤学園高校)	2位
	57kg級	松川美世(藤枝順心高校)	3位
	63kg級	原田祐花(静岡学園高校)	1位
	70kg級	村山のどか(市立沼津高校)	2位
	78kg級	菊池優貴乃(静岡学園高校)	1位
	78kg超級	中村 優(藤枝順心高校)	4位

JOCジュニアオリンピックカップ
平成23年度全日本ジュニア
柔道体重別選手権大会

9月10日(土)~11日(日)
埼玉県立武道館

女子	48kg級	岡本理帆(藤枝順心高校)	3位
	63kg級	原田祐花(静岡学園高校)	1回戦敗退
	70kg級	村瀬由樹(静岡学園高校)国際武道大学	1回戦敗退
	78kg級	菊池優貴乃(静岡学園高校)	2回戦敗退
男子	55kg級	鈴木優希(常葉橋高校)	3位
	66kg級	吉澤 駿(静岡学園高校)東洋大学	2回戦敗退
	73kg級	伊奈慶貴(日大三島高校)	1回戦敗退
	90kg級	細川敦大(浜松商業高校)日体大学	1回戦敗退

第36回全国教員柔道大会

8月6日(土)
講道館

第36回全国教員柔道大会は、東京講道館にて開催されました。静岡県チームは、中堅のベテラン井口選手を中心に、小塚選手、山崎選手、大場選手に初出場の川端選手と団結力のあるメンバーで大会に臨みました。

静岡県は、開会式直後の第1試合にて、第1回戦で岩手県と対戦しましたが、残念ながら2対1で初戦敗退に終わってしまいました。

2対1で初戦で敗退しましたが、選手は、皆、全力を尽くして力を出し切る試合をしてくださいました。また、いろいろと柔道の指導方針や学校での仕事内容などの情報交換もあり大変勉強になる時間を過ごす事ができました。

私自身も、初めての教員大会の監督で大変に良い経験をし勉強になりました。監督をさせてもらった事に大変感謝しています。ありがとうございます。

監督 藤巻文雄
1回戦 静岡県1-2岩手県

監督	藤巻文雄(御殿場西高校)
大将	大場章吾(沼津商業高校)
副将	小塚直哉(飛龍高校)
中堅	井口往彦(浜北西高校)
次鋒	山崎大介(磐田南高校)
先鋒	川端常弘(湖西高校)

第8回全国小学生学年別柔道大会

8月28日(日)
大阪中央体育館

5年男子45kg級	村松孝紀(静岡練心館)	2回戦進出
5年男子45kg超級	杉本康平(清水町柔道会)	初戦敗退
6年男子50kg級	小笠原一貴(静岡練心館)	2回戦進出
6年男子50kg超級	渡辺将一(静岡練心館)	3回戦進出
5年女子40kg級	池谷 弥(育誠館)	2回戦進出
5年女子40kg超級	澤崎莉子(清水町柔道会)	ベスト8進出
6年女子45kg級	鶴巻 実(神土館)	2回戦進出
6年女子45kg超級	井上明日香(神土館)	3回戦進出

平成23年度全国高等学校総合体育大会
第60回全国高等学校柔道大会

8月9日(火)～13日(土)

秋田県立武道館

男子団体

静岡学園高校

3回戦敗退(ベスト16)

女子団体

東海大翔洋高校

3回戦敗退(ベスト16)

男子個人

福本真佐也(静岡学園高校)

1回戦敗退

66kg級

佐藤光将(静岡学園高校)

3回戦敗退(ベスト16)

73kg級

伊奈慶貴(日大三島高校)

2回戦進出

81kg級

田中健登(東海大翔洋高校)

3回戦敗退(ベスト16)

90kg級

山本雄也(浜松商業高校)

1回戦敗退

100kg級

下田一輝(浜松商業高校)

2回戦進出

100kg超級

徳丸佑真(加藤学園高校)

1回戦敗退

女子個人

岡本理帆(藤枝順心高校)

5位(ベスト8)

48kg級

5位(ベスト8)

52kg級

秋山侑里佳(藤枝順心高校)

1回戦敗退

57kg級

松川美世(藤枝順心高校)

3回戦進出(ベスト16)

63kg級

原田祐花(静岡学園高校)

1回戦敗退

70kg級

村山のどか(市立沼津高校)

3回戦進出(ベスト16)

78kg級

菊池優貴乃(静岡学園高校)

5位(ベスト8)

78kg超級

滝川真央(富士市立高校)

1回戦敗退

第42回全国中学校柔道大会

8月22日(月)～25日(木)

和歌山ビッグホエール

男子団体

予選リーグ敗退

静岡学園中学校

1-2 東海大相模(神奈川)

2-1 出雲第一(鳥根)

女子団体

予選リーグ敗退

東海大翔洋中学校

3-0 下吉田(山梨)

0-1 広陵(奈良)

男子個人戦

上村悠真(高台中学校)

1回戦敗退

55kg級

小林大貴(金岡中学校)

2回戦進出

60kg級

望月飛翔(静岡学園中学校)

3回戦進出

66kg級

辻 大成(静岡学園中学校)

1回戦敗退

73kg級

佐野安大(静岡学園中学校)

3回戦進出

81kg級

植田蒼太郎(高台中学校)

3回戦進出

90kg級

花井拓哉(中郡中学校)

2回戦(初戦敗退)

90kg超級

岡村康平(東海大翔洋中学校)

2回戦(初戦敗退)

女子個人戦

鈴木茉莉(藤枝順心中学校)

2回戦進出

48kg級

成宮妃世梨(藤枝順心中学校)

3回戦進出

52kg級

川原礼花(東海大翔洋中学校)

2回戦(初戦敗退)

57kg級

山本ひな(東海大翔洋中学校)

2回戦進出

63kg級

安竹真利奈(東海大翔洋中学校)

2回戦進出

70kg級

遠田真子(東海大翔洋中学校)

ベスト8進出

70kg超級

楠 麻衣(長岡中学校)

2回戦(初戦敗退)

速報 高校生新人柔道大会

個人戦 平成24年1月14日(土) 県武道館

団体戦 平成24年1月21日(土) 県武道館

各部門県大会1位が左記の日程で行われる全国大会に県代表として出場する。

男女個人試合 平成24年3月19日(月)

男女団体試合 平成24年3月20日(火) 日本武道館

男子団体

優勝 静岡学園高等学校

2位 藤枝明誠高等学校

3位 常葉橘高等学校

女子団体

優勝 沼津市立高等学校

2位 富士市立高等学校

3位 加藤学園高等学校

男子個人優勝者

60kg級 大場隆成(浜松城北工業高校)

73kg級 新見公秀(浜北西高校)

81kg級 浅賀慎太郎(静岡学園高校)

90kg級 伴野佑樹(新居高校)

無差別級 佐藤和哉(静岡学園高校)

女子個人優勝者

52kg級 岡本理帆(藤枝順心高校)2年連続

57kg級 前山理菜(加藤学園高校)

63kg級 古川稜子(市立沼津高校)

70kg級 村山のどか(市立沼津高校)2年連続

無差別級 滝川真央(富士市立高校)

速報 静岡県柔道選手権大会

平成24年2月4日(土) 県武道館

男子

1位 増田圭省(県警)

2位 小椋俊彦(県警)

3位 齊藤和仁(県警)

女子

1位 村山のどか(沼津市立高)

2位 滝川真央(富士市立高)

3位 原田祐花(静岡学園高)

男女とも1・2位が東海大会に出場する

速報 少年柔道団体選手権大会

平成24年2月26日(日) 県武道館

1位 清水町柔道会

講道館講習会・静岡県中央形講習会開催

平成23年7月17日(日)
午前9時30分～午後3時30分
静岡市北部体育館
講師 道場良久七段

(講道館指導員・警視庁柔道師範)
講道館形講習会が県中央形講習会を兼ねて開催された。今年度は警視庁の師範である道場先生に指導していただいた。受講者は役員5名、受講生37名であった。講習の様子を八木卓審判研修委員長に伝えていただく。

講道館講習会・静岡県形中央講習会が、平成二三年七月十七日(日)静岡市北部体育館において、講師に警視庁師範・講道館指導員の道場良久先生をお迎えして、県内各地からの受講生三十七名の参加をもって開催された。道場先生は今年度ヨーロッパで行われた講道館講習会に講師として参加、また、講道館形シリーズの「固の形」で演技されるなど豊富な形指導のご経験があり大変分かり易いご指導を頂いた。

講習の最初に「形の演技は、礼法、姿勢、攻防の動き、取と受の位置など全部を含めて演

技となる。」と述べられ、踞姿、

膝行、受の仰臥姿勢など参加者全員を見て回り、丁寧にご指導された。抑込技の指導に入るに当たり、「固の形は乱取の形ですが、投の形と比べ、固の形は地味ですので、取の極めに対して、受がそれから逃げるための攻防の理合いを表現するには、それぞれの動きに関連性を持たせ、動作を大きく表現することが大切です。」と話され、その為には、取が極めのあと、受が動きを作れるよう多少の隙を作ってやると受の動きを大きくすることができるというアドバイスを受けた。

取と受の攻防の理合いを理解するために、袈裟固では、それぞれの三つの動きを確認した。①受は右掌に左掌を添えて取の左肘の逆を取る。取はこれに応じて左足を大きく踏み出し、うつ伏せで対応する。②受はあおりを利用して右膝を取の体の下へ入れる。取は腰を切つてこれに応ずる。③受は取の左肩越しから帯(背中)をとりいき、鉄砲で返す。取は左足を大きく踏み出しうつ伏せになって応ず

る。そして、受は「参り」の合図をする。そして、攻防によって移動した位置から、取は受を最初の仰臥姿勢の位置へ戻し近間、東間と移動して踞姿する。

この三つの攻防の動作を1つずつ確実にできるようにして、何回も繰り返し、最後は、取の極めから受の「参り」までの動きを途切れることなく行えるようにした。

このような方法で、三つの受の逃げ方と取の対応を決め、肩固、上四方固、横四方固、崩上四方固のご指導をいただき、礼法から抑込技の五本を通して練習して、午前の部を終了した。

午後の部は十三時から始まり、先生が参加された三月のヨーロッパ講道館講習会の様子や感想などの講演で講習が始まった。ヨーロッパの実情や今後の世界選手権の展望など例を挙げてお話しされたので大変興味深く聞くことができた。

講演に引き続き、絞技に入り、片十字絞、裸絞、送襟絞、片羽絞、逆十字絞と取の細かい留意点と受の応じ方の指導を受けた。特に受の「参り」の際の姿勢が活きていないことを指摘されそれを是正する方法の指導を受けた。続いて、関節技に入り腕臑、

腕挫腕固、腕挫十字固、腕挫膝固、足臑と取の細かい留意点と受の応じ方の指導を受けた。受の襟を取りに行くタイミングは、教本に取の「攻める氣勢」と表現してあるように、約束でそれが分かるようにしておくこと、腕挫十字固では受は取の襟を取りに行くとき親指が襟の中に入り、取られた瞬間親指が上になるように取ること、腕挫膝固では取に右足先を左内股に当て大きく前に崩されたときしっかりと左手で前受け身を取つて右膝を付き踏ん張ること、等の指導があった。

休憩を挟んで、それぞれの組で抑込技から関節技までを通して練習して、最後に受講生を代表して山崎敦史三段・本山太郎三段、海野幸雄六段・加藤毅士二段の二組が講習の成果を演じ、他の受講生の拍手を浴びる中、道場先生からお誉めの言葉を頂いた。そして、本講習への受講生の取り組みへの講評とそれぞれの立場で更なる向上を目指すよう期待が述べられ講習会が無事終了した。

静岡県では、三月に第一回「形」競技会が開催され、古式の形を除く六つの形に七組の参加があった。また、五月には静岡

県柔道整復士会柔道大会で第一回小学生「形」競技会が開催され、投の形に九組の出場があった。投げの形で優勝した神戸館の鶴巻実さんと平井佑佳さんの演技は大変素晴らしく、会場の大勢の皆さんから盛んな拍手が送られた。小学生の段階から形を学ぶことによって、技の理解が更に深まり今後の技術向上と大会での活躍に期待したい。また、正しい取と受の動作を正確に出来るようにご指導された先生方のご尽力に頭が下がります。

講道館講習会は、講師に形を極めた素晴らしい先生方が派遣されるので、分かり易い丁寧なご指導によって、形のビデオやDVDまた教本ではなかなか理解できないことが大変よく分かるようになります。また、その先生方のご体験や柔道界の立場により、中央や世界の柔道についてお話が聞けることも大変大きな魅力です。

形講習会に多数参加されて、昇段のため、形競技大会の出場を目指す、後進のために形指導の技術向上を目指す等それぞれに活かしてくれることを望みます。

柔道底辺拡大への取り組み報告

各地区で柔道人口拡大のための取り組みが行われています。今回は西部地区の取り組みを中心に各地区の取り組みを報告する。

西部地区

親子柔道教室開催

浜松市武道館

平成23年11月6日午後1時から午後4時まで

主催 静岡県柔道協会、静岡文化芸術大学

共催 静岡県西部地区柔道協会 協賛 西部柔道場連盟

講師 溝口紀子（静岡文化芸術大学准教授、バルセロナオリンピック銀メダリスト）

講師 青木 倫（株式会社河合



参加者全員集合

楽器製作所体育事業部健康増進推進室長）

幼稚園の年少から小学2年生までを対象とした親子柔道教室が西部地区でも開催された。女



親子で体操

性の柔道人口を増やす対策の一環として県下で計画されたが、その西部地区での実践である。西部地区各道場に所属する子どもだけでなく一般の子どもたちも参加してくれた。合わせて保護者の皆さんも体操服で参加していた。

最初に青木先生と2人のコーチにより基本的な体操の指導がなされた。子どもたちは本当に楽しそうに親子で取り組んでいた。後半は溝口先生より柔道的な



溝口先生に挑戦！

指導がなされた。特に抑え込みでは親子で取っ組み合いになり、また有段者を抑えるときには溝口先生には多くの子どもが殺到し、さすがのメダリストも抑え込まれていた。

最後のインタビューに答える様子から、子どもも保護者も本当に楽しい時間を過ごすことができたと思われる。今後の継続や、一般の保護者への浸透についてはこれからの課題である。

中部地区

親子体験柔道教室開催

平成23年8月21日（日）午前

10時から正午までの日程で、静岡市北部体育館柔道場で開催された。「親子で体験したい方な

らどなたでも参加できます。基礎運動を中心に行いますので、投げられるなどの動作はありま

せん。特に、お母さんや女性の方の参加は大歓迎です。ぜひ、この機会に柔道を体験してみてください。」と呼びかけている。

参加者は、指導者が22名、講習参加者は親子合わせて87名だった。

準備体操、柔道ゲーム、礼法指導、受身指導、柔道の形に挑戦、押さえ込み実践など楽しそうなおメニューが用意された。

レンタル柔道着（静岡市柔道連盟で買足している）が非常に役立つ。親子のスキンシップがとれ、新たな距離感が生まれた。準備運動にエアロビックスを取り入れたことで楽しくスタートすることができた。参加者の中にかつて柔道をされていた

平成23年度 全日本カデ柔道体重別選手権大会

平成23年度全日本カデ柔道体重別選手権大会が、全日本柔道連盟主催・静岡県柔道協会主管で平成23年4月10日（日）静岡県武道館（静岡県藤枝市）を会場に開催された。

今回初めて実施された15歳・16歳の日本一を決める大会であり、8月にウクライナで開催される世界カデ選手権大会の日本

の方がおり、人材発掘することができた。以上のような意見が寄せられている。

東部地区

東部地区では「エアロビ柔道」が実践されていて、週3回（水・土曜日、午後7時から8時30分）、沼津市立沼津高等学校柔道場で開催されている。「年齢に関係なく、健康で『柔道の礼法・受身』などを体得し、怪我防止と体力増強を目指したい人、また子どもや孫と遊びたい人」を対象に、「全市民、礼と受身の体得を」をスローガンに掲げ実践されている。

また、親子柔道教室も実践している。

代表選考を兼ねる大会である。男女各8階級で実施され、各階



上村先生のあいさつ

級選抜された8名のみのお出場である。

開会式に先立ち、東日本大震災で犠牲になられた方々のご冥福を祈り全員で黙祷を捧げた。また、選手宣誓をおこなった静岡学園高等学校1年佐藤和哉君も、「頑張っている被災地の人たちに、柔道を通し勇気と希望を与えられるよう全力を尽くし、このような状況の中で柔道ができる喜びを感じ試合すること」を誓っていた。

日本柔道界の将来を確実に背負って行くであろう総勢128名の若者の熱き戦いの日だった。大会運営に関しては、急な大会開催であったが国体を初め大きな大会を体験してきており、スムーズに運営できたと思う。静岡県柔道協会の団結力を示すことができたと思う。



女子70kg級で優勝した遠田選手

柔道安全指導講習会開催

平成23年6月12日

柔道安全指導講習会が小学生学年別大会終了後、静岡市北部体育館柔道場で開催された。全体では173名の参加者があり、所属別では協会所属29名、高体連所属23名、中体連所属14名、少年団所属81名、警察その他所属26名であった。講師には全柔連から浅野哲男先生をお迎えし、柔道の安全指導に関する講習を受けることができた。感想要望では以下の意見が寄せられた。



講習会の様子

- ・頭部事故防止対応マニュアルを早目に入手したい。
- ・練習計画を作成したいが、参考例があれば見せて欲しい。
- ・講習の場所をもっと受講しやすいところを考えて欲しい。



講師の浅野先生

- ・フランスでは柔道事故が無いと聞くが詳細を知りたい。
- ・マスコミの柔道は危険なスポーツと決め付けた報道はいかがなものか、また、勝てばよいという柔道部活動の風潮もこの機会に正して欲しい。
- ・本日の講習で学んだことを今後の指導にいかしていきたい。
- ・中学校の部活動で、指導者がきちんと指導できる勤務体制を確立するよう関係方面に要請して欲しい。
- ・パワーポイントだけでなく、冊子の資料があればよいと思う。
- ・実技指導も講習に入れて欲しい。
- ・ヘッドギアの着用は有効なのか。着用の義務化の動きはあるのでしょうか。

平成23年度 全日本柔道連盟柔道教室

平成23年度11月23日(水・祝)

静岡市北部体育館柔道場 午前9時30分から午後3時30分

平成23年度全日本柔道連盟の柔道教室が行われた。講師には岡田弘隆先生(筑波大学)、北田晃三先生(東海大学望星学塾)、山下亜希先生(了徳寺大学)の3名をお迎えした。



開講式の様子

開講式では県少年柔道連絡協議会会長の栗田先生の開会宣言、安齊会長の挨拶に続き田中県理事から講師の紹介が行われた。3人の講師から挨拶が行われ、午前の講習が開始された。午前中は準備運動に続き、柔道の基本動作が指導された。寝技では足捌きの練習や下からの攻め方、かめの状態からの攻め方等ゲー



参加者全員集合

ムの要素を入れながら楽しく講習が進められた。立ち技でも基本の重要性が強調され、打ち込みの指導が行われた。受けの大切さが強調されていたのが印象に残った。常に「礼法」を強調されていたことも印象に残った。昼食の時間を少し短くし、講師と参加者の意見交換を行った。試合のときに力を発揮する方法や、安全面での配慮など日頃指導者や保護者が疑問に思っている事柄等を講師に直接問いかけていました。実技だけでなく貴重な時間となりました。午後の講習では乱取り練習が中心に行われ、予定通り終了した。

道場紹介

県内各地でがんばっている「道場」を各地区の道場ずつ紹介します。

- ①名称
- ②住所(練習場所)
- ③連絡先
- ④代表者氏名
- ⑤所属人数

神士館 (こうしかん)

- ②三島市立錦田中学校、三島市民体育館
- ③〒410-1113 裾野市稲荷 216-12
- ④神山信之
- ⑤小学生 28 人 中学生 7 人 指導者 6 人

⑥道場紹介

三島柔道会の指導者であった神山巖先生が、昭和61年12月、三島市谷田に個人道場として「神士館」を開館、地域の子供たち4・5人を集めて練習を始めた。4年後の平成2年、県の代表として全国大会に初出場、平成21年に、記念すべき10回目の全国大会を果たした。現在は、錦田中学校に練習場所を移し、全国大会に出られる様な道場作りを目指し、日々練習に励んでいる。



三島柔道会

- ②三島市南本町 12 - 23
- ③〒411-0841 三島市南本町 12-23 ☎055 - 972 - 3660
- ④下山隆伸
- ⑤児童 2 人 小学生 8 人

⑥道場紹介

昭和22年6月に青少年の健全育成を目的に初代会長に田



邊寿之助氏、初代理事長に望月角衛氏が就任し三島柔道会が設立されました。練習日は月、水、土曜日の午後7時から9時まで練習しています。三島柔道会では柔道の技術などを教える事はもちろん、今の子供達があまりできなくなってしまう挨拶や目上の人に対する礼儀、言葉使いなどもしっかりとできるように育てています。

今後「人間はやれば必ずできる!」をモットーに、自分に負けない強い精神力をもった子供の育成を目指し、指導者一同頑張つて参ります。

柔好会

- ②焼津中央高校内
- ③☎054 - 629 - 1063
- ④安竹克好
- ⑤小学生 22 人 中学生 4 人 一般 20 人

⑥道場紹介

2005年に柔好会設立、焼津中央高校内柔道場を借りて練習しております。

練習日は月・水・金の週3回、幼児〜大人まで地域柔道普及の為、日々精進しております。

焼津市は中学柔道部が無く、中学生用の柔道場として開始しましたが、2年前から小学生も始め、今では幼児から大人まで幅広く「柔道が好きになる会」を目指し努力しております。



長田柔道倶楽部

- ②静岡市駿河区鎌田 98-8
- ③ 054-258-6221
〒421-0111
静岡市駿河区丸子新田 458 - 11
- ④増岡秋男
- ⑤小学生 20人 中学生 10人
高校生 1人 大学・社会人 22人

⑥道場紹介

長田柔道倶楽部は、長田体育館の新設に伴い昭和61年4月に始まりました。

柔道の精神である「心技体」を主軸に、心と体の成長を目標にしています。

水・土曜日の週二回、一部は6時30分から小学生・初心者を中心に、二部は7時30分～8時45分まで中学生から一般までが汗を流しています。「継続は力なり」一緒にやりましょう。一年を三期に分け、その期ごと募集していますので、一度見学に来て下さい。



高山柔道塾

- ②浜松市中区高林1丁目17-2
- ③〒432-8003
浜松市中区和地山1丁目7-612
- ④塾長 高山直久
- ⑤児童 3人 小学生 16人
中学生 6人
大学・社会人 10人

⑥道場紹介

高山柔道塾は、我々兄弟が、中学時代に柔道と出会った事で、人生観が変わり後進に柔道の素晴らしさを伝えたくて、平成2年5月2日に兄弟2人



で開塾致しました。開塾2年前から県内の柔道の試合は勿論全国大会まで足を運び、全国大会を目標に開塾致しました。稽古は、(月)(水)(金)の週3回19時～21時半迄、幼児・中高生・一般の塾生が稽古に励んでおります。現役の塾生及びOB・OGを含め、のべ70名近くの塾生が全国大会に出場しております。

知波田道場

- ②湖西市古見 1154 - 1
- ③〒431-0442
湖西市古見 1154 - 1
☎053 - 576 - 3612
- ④水野 進
- ⑤小学生 17人
大学・指導者 2人

⑥道場紹介

今知波田道場で主に取り組んでいる事は、リズム感を持って技を理解する事です。そのために音楽のリズムに合わせて柔道の技をステップで、総合的に体感出来る様工夫しながら、楽しく早く柔道を学

べる事が出来るように研究しています。例えばビートルズのデイ、ツリッパでは足払い、燕返し、送り足払い、右小内刈、左大内刈、左小内刈、右大内刈、のローテーションを三回から四回繰り返します。イエローサブマリンに合わせての背負投、エリノア、リグビーに合わせての体落とし等未だ開発中のものも、息をきらせながら楽しくやっています。



新人選手紹介コーナー

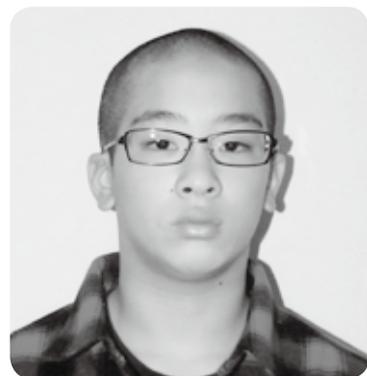
例年どおり、今年度もこのコーナーで紹介できる選手がでました。柔道協会としては本当に嬉しいことです。全国大会で3位までに入賞した若い選手を紹介しているコーナーですが、今年度は6名の選手を紹介することができます。

第31回全国少年柔道大会個人戦6年の部で3位に入賞した渡辺将一君（静岡錬心館道場）、平成23年度全日本カデ柔道体重別選手権大会女子70kg級優勝・2011年度世界カデ柔道体重別選手権大会女子70kg級準優勝の遠田真子さん（東海大学翔洋高等学校中等部）、平成23年度全日本カデ柔道体重別選手権大会男子50kg級3位入賞の杉山慎吾君（常葉学園橘高等学校）、平成23年度全日本カデ柔道体重別選手権大会男子90kg級3位入賞の佐藤和哉君（静岡学園高等学校）、平成23年度全日本ジュニア柔道体重別選手権大会男子55kg級3位の鈴木優希君（常葉学園橘高等学校）、平成23年度全日本ジュニア柔道体重別選手権大会女子48kg級3位・平成23年度講道館杯全日本柔道体重別選手権大会女子48kg級3位の岡本理帆さん（藤枝順心高等学校）です。例年女子選手が活躍する例が多かったのですが、今年は男子4人女子2人と男子選手が頑張ってくれました。また、今年は世界大会やジュニア大会、シニアの大会で活躍した選手も目立ちました。

◎第31回全国少年柔道大会
個人戦6年の部3位

渡辺将一君
(静岡錬心館道場)

渡辺君が柔道を始めたきっかけは「姉が柔道に興味を持ち錬心館道場に入ることになったとき、一緒に入った」ということで、おねえさんの影響が大きかったようです。全国大会入賞の感想は一言「うれしかった」実感だと思えます。静岡県小学生学年別柔道大会でも優勝しており、小学生年代では県内はもとより全国でもトップクラスの実力を持つ期待の選手です。今後の夢は柔道が続け「インターハイ出場」と言っています。出場だけでなく入賞そして優勝を目指して欲しいものです。指導者からは「柔道に対する直向



◎平成23年度全日本カデ柔道
体重別選手権大会
女子70kg級優勝

遠田真子さん
(東海大学翔洋高等学校中等部)

遠田さんが柔道を始めたきっかけは「父と兄の影響で」と言うことで、まさに柔道一家だと言えらると思えます。世界大会入賞の感想は「自分でもここまでいけるとは思っていなかったで、正直すごくうれしかったで



な姿勢が好結果をもたらしたと思う。今後の更なる活躍に期待する」と熱いエールを贈られています。ぜひ柔道を継続し、夢を実現して欲しいものです。

◎全日本カデ柔道選手権大会

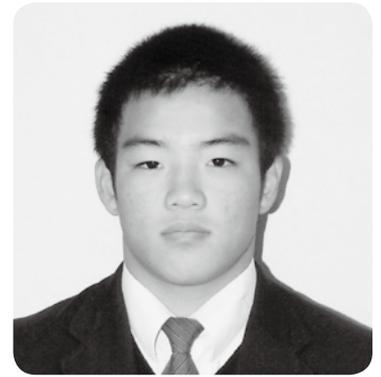
佐藤和哉君
(静岡学園高等学校)



す。これからもっと上を目指していきたいです。」と、素直に感想を述べてくれました。全国中学校柔道大会でも5位入賞している実力者で、今後の活躍が期待されます。将来の夢は「まずは日本一を目指し、最終的には世界一になりたいです。」と大きな夢を持っています。全日本体重別選手権やオリンピックでの活躍を目指して頑張るって欲しいものです。指導者からは「これからも練習に励み、目標を達成するため日々努力あるのみ。」と厳しく励まされています。高等学校でも頑張っています。

男子90kg級3位

佐藤和哉君は昨年も全国中学校柔道大会個人戦90kg級準優勝でこのコーナーで紹介しています。今回の結果で、本人の努力や関係者の指導で順調に成長していることが分かります。柔道を始めたきっかけは「父に勧められたこと」だそうです。今回の入賞に関しては「1位にならなければ世界カデ大会には出場できなかったためこの結果は悔しいです。でも、この試合で学んだことは多いので、次の試合で今回学んだことを活かしていけるようがんばりたいです。」と非常に前向きに感想を述べてくれました。将来の夢は「オリンピック出場」とはっきりと目標を定めています。ぜひ夢を実現してください。そして日の丸を掲げて欲しいものです。指導者からは「柔道に対しての意識が高く、毎日の練習に向上心を持って取り組んでいる。日本一を取る力はあると思うので、精神面を鍛え努力を重ね夢を実現して欲しい」とさらなる飛躍を期待されています。



鈴木 優希君
(常葉学園橋高等学校)

◎平成23年度全日本ジュニア
体重別選手権大会
男子55kg級3位

鈴木君が柔道を始めたきっかけは「道場に通っていた人に誘われたから」と言うことで、誘ってくれた人のおかげで今の鈴木君が存在したことになります。今回の結果については「目指していたのは優勝だったので悔しかったけど、3位入賞もすばらしい成績なので素直に喜びたい。」と感想を述べています。鈴木君もかつて全国中学校柔道大会で3位入賞しており、今回の入賞で順調な成長を証明しています。今後の夢は「柔道をやっている間は常に頂点を目

指し、周囲から尊敬されるような選手になりたい」と模範的な夢を持っています。指導者からは「減量や練習の苦しさから逃げず努力をしています。これからも自分自身の目標に向かい頑張ってほしいと思います。」とお褒めの言葉とエールを贈られています。



杉山 慎吾君
(常葉学園橋高等学校)

◎平成23年度全日本カデ柔道
体重別選手権大会
男子50kg級3位

杉山君が柔道を始めたきっかけは「道場の先生に誘われたため」と答えてくれました。誘ってくれた先生に見る目があったのでしょう。平成23年度全日本カデ柔道体重別選手権大会男子

50kg級3位入賞という今回の結果については「初戦を勝てたことは嬉しかったが、準決勝で負けてしまい悔しかった。」と決勝進出を逃した悔しさを語っています。中学校時代には東海大会で準優勝している等、期待されている選手ですので今後も怪我に注意して成長していつてもりたいものです。

指導者からは「試合当日減量に苦しみました。精神力でカバーしてました。『文武両道』を実践する人物として本校の誇りとする生徒の一人です。」と杉山君を高く評価しています。



岡本 理帆さん
(藤枝順心高等学校)

◎平成23年度全日本ジュニア
柔道体重別選手権大会
女子48kg級3位

◎平成23年度講道館杯
全日本柔道体重別選手権大会
女子48kg級3位

岡本さんが柔道を始めたきっかけは「姉の影響」と柔道姉妹のようです。岡本さんも中学校時代から全国で活躍している選手ですが、高校でも着実に成長しているようです。今回の入賞については「いつも応援してくださる人達のおかげで勝つことができています。感謝の気持ちを忘れずにこれからも頑張っていきたい。」と謙虚に語ってくれました。そして、今後の夢としては「全国制覇」と今回果たせなかった夢の実現をあげています。高校生(ジュニア)世代だけでなくシニア世代でも十分チャンスがあると思いますからぜひがんばって欲しいものです。指導者からは「強くなる為には努力、勝つ為には研究を実践していったことで、今回の結果が出せたのだと思います。これからも努力・研究をしていってほしいと思います。」と「努力」と「研究」の重要性を強調されています。

指導者講習会開催

柔道の安全指導が叫ばれている折、静岡県でも指導者講習会が実施されている。東部・西部・中部・そして全県と合計4回開催される。講師は中央講習会に参加した伊藤道明四段（焼津高等学校教諭）と阿部光好五段（静岡市立長田西中学校教諭）そして、医師として鈴木英彦医師（藤枝市）と伊達靖医師（掛川市）が交互に担当される。内容は各会共通で1. 講義「柔道の安全指導」(1)全柔連の取り組み (2) 頭部・頸部負傷時の対応、2. 実技「柔道の基本指導」(1)トレーニング論 (2)基本指導の実際、3. その他という内容で実施される。県内では約1000名の受講が予定されている。



平成24年2月19日（日）浜松市武道館で開催された西部地区の講習会の様子を紹介する。午前中に行われた西部地区の審査会に続いて、午後1時から4時にかけて実施された。中央から派遣された金丸雄介5段と賀持道明6段も参加され、西部地区の指導者や学校の顧問を中心に約230名の参加があった。

安齋静岡県柔道協会会長の挨拶に続き、佐々木事務局長より講師の紹介が行われ、講習会が始まった。

講義Ⅰ (1)安全指導の取り組み 伊藤道明講師、(2)頭部・頸部負傷時の対応 伊達靖講師

講義Ⅱ (1)指導者の在り方とコーチング 伊藤道明講師、(2)基本指導 阿部光好講師

以上のような内容で講習が行われた。

伊藤先生はパワーポイントを

使用して講習を行い、映像は資料としても配布されていたので、非常に分かりやすい講習であった。ただ、内容的には非常に厳しいもので、柔道による死亡事故や重症化した事故の実例が説明された。事故原因の分析や指導者に求められる安全配慮義務など、今後求められる基本的な事柄が丁寧に紹介された。また、医師の伊達先生からは医学的見



地から頭部打撲について説明がなされた。「セカンド・インパクト」というあまり聞きなれないが、大切な言葉も紹介された。同様に頸部負傷についても説明がされた。

休憩をとった後伊藤先生より「柔道指導者とは」というテーマでコーチング論が紹介された。講習の最後に、阿部先生より基本指導の実際ということで実技



指導が行われた。焼津高校の生徒と若手指導者が実技を体験させていただいた。会場の都合もあり、着替えることができなかった参加者も周囲で熱心に見つめていた。補助運動や受身の練習、投げ技の基本練習等を指導していただいた。

閉講式での質疑応答ではかなり専門的なことも議論されていた。左口西部地区幹事長の講評があり、安齋会長から左口幹事長に受講者の代表として終了証が授与された。

柔道の安全指導の小冊子や柔道の基本指導の冊子が配布され、部活動の指導マニュアルといふべき資料も用意され、非常に参考になる講習会であったと思う。参加者は今回の講習で学んだことを日頃の指導に生かしてほしいものである。

編集後記

柔道しずおか15号をお届けします。

中学校で武道必修化にともない柔道事故が目立って、柔道の危険性が報道されています。体育の授業中に事故が起きているのではなく、部活動の中での事故です。区別しなくてはならないと思います。しかし、身を守る柔道の練習で事故・怪我が発生し、命を失うことがあってはなりません。事故発生原因をしっかりと検証し再発防止に柔道界全体で取り組まなくてはならないと思います。

今年は昨年中止した、柔道勧誘のためのポスターを作り、柔道啓蒙ポスター（形の名称ポスター等）は中止としました。このことに関して皆様のご意見をお聞かせください。また、せっかく作ったポスターですので活用してください。

底辺拡大のための親子のための柔道教室を各地区で開催しています。今年度西部地区が開始し、3地区全てで実施されました。今後とも継続し、底辺拡大そして静岡県柔道界の発展につながることを期待します。